

# 東崎に新・文化施設完成

『感性』を育む文化交流施設に

ムーンテラス東崎

この夏も多くの観光客が訪れ、賑わいを見せた東崎。そこに、八月十五日のセレモニーを経て、「東崎音楽堂」とテナントの複合施設「ムーンテラス東崎」がオープンしました。施設は敷地面積約三三〇〇平方メートル、飲食店などが入った商業施設と音楽堂からなっており、音楽堂は二五〇人以上が収容可能なメインホールと中、小ホールなどを備え、コンサートや演劇などはもちろん、展示会やカルチャーイベントなども開催できます。



片岡禅勝さん

施設建設を手がけた片岡禅勝さん（宗教法人達磨峰西来院副住職）は、音楽堂を寺子屋に

例え、「文化や芸術、芸能などに触れることで、子どもたちの感性を育てることのできる現代版の寺子屋を作りたい」とムーンテラス東崎にかける思いを語りました。また、「展示会や芸能、個人の発表会など、地元の方にどんどん活用してもらいたい。今後、西原らしい活用をしていただければ」と今後の抱負を述べました。

## 西原企業探訪

### ニシバルミーぐるぐる

“(株)サンシオ”編

町などと連携して特産品開発に取り組む西原町内の企業を紹介するシリーズ「ニシバルミーぐるぐる」。今回は字小那覇で塩せんべいを製造する(株)サンシオの代表取締役社長、塩川雅紀さんにお話を聞きました。

- ◆(株)サンシオとは⇒15年ほど前に親からせんべいの製造を引き継ぎ、平成16年に小那覇へ移転。2年前に法人化。商品は県内の主要スーパーを始め、県外の百貨店やアンテナショップに並んでいる。
- ◆日々新しい味を求めて⇒昔ながらの塩せんべい以外に、日々新しい味を求めて試行を重ねている。現在は梅やカレー、ゴーヤチャンプルー、チーズハバネロ味など7種類が販売されており、塩味以外にこれだけの種類を製造するのはサンシオだけとのこと。
- ◆人とのつながり⇒西原に移転して、近くの工業地域の企業と情報交換がしやすくなった。異業種との交流は勉強になるようだ。また、地域の方との触れあいを心がけており、地域の活動への参加等を通じて地元とのつながりが強くなったという。
- ◆塩川社長の思い⇒「幼い頃から慣れ親しんできた塩せんべいだからこそ、現代の子どもたちやそれ以降の未来でも身近な食べ物として残していきたい。ちんすこうなどの沖縄を代表するお菓子と共に、県内はもちろん県外や海外でも長く親んでもらえるようにしたい」と真剣な眼差しで語っていた。「商工会とタイアップして黒糖味のせんべいを開発中。これからはウコンやもずくなどの県産食材も取り入れ、沖縄ブランドを広げていきたい」と思いをはせる姿は、情熱とチャレンジする心が感じられた。サンシオではこれからも、塩せんべいが新しい物に変化し続けていくだろう。



元気いっぱい!

## 西原のオジイ・オバア

夫婦揃ってトーチカも

敬老の日がある九月は、お年寄りの話題をよく耳にします。西原町にもたくさんのお年寄りが元気に活動しています。今年度西原町でトーチカを迎えた方は八二人、カジマヤーは二三人、新百歳は六人おり、記念品を贈呈してお祝いしていま

す。城間喜春さんとナルさん夫婦（字与那城）は、今年ふたり揃ってトーチカを迎えたおめでたいご夫婦です。毎日元気に農作業に勤しんでいる喜春さんは「九時に寝て六時に起きる規則正しい生活と、三食しっかり食

べ、間食をしないことを心がけている」と元気のこつを教えてくださいました。夫婦揃って元気だからお互い話し相手がいて毎日を楽しく過ごせているそうです。お年寄りのみなさん、これから元気で長生きしてください!



城間喜春さん(右)とナルさん(左)



トーチカ：数え年88歳(満87歳)の方  
大正12年生まれ  
カジマヤー：数え年97歳(満96歳)の方  
大正3年生まれ

## がん検診 愛する家族への 贈りもの

10月1日から10月31日を「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」と定め集中的に普及啓発を行うとともに、同キャンペーンで使用する「キャッチフレーズ」「イメージキャラクター」「ロゴマーク」を決定しました。

“がん”は、日本人にとって国民病ともいえる存在です。国民の2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなっています。自分自身やあなたを必要とする人のためにも、がん検診を受診しに行きませんか。

